

IX. 静岡県開発教育実践講座の記録

静岡県において実施した開発教育実践講座の記録として、講座の開催記録、参加者のふりかえりシート、作成・配布した主要な資料、準備会の打合せの経過を示します。なお、主な「記録」の体裁としては、実践講座の企画から運営、記録まですべてにわたり、準備会が行ってきたことから、基本的に準備会が作成したものを尊重し、そのまま掲載しました。

1 静岡県実践講座の開催記録

(1) 講座の概要

◆ 日時・場所

- 日時：平成15年10月25日（土）13時30分～16時30分
- 場所：静岡商工会議所会館 302会議室
- 参加者数：59人（講師・スタッフを含む）

◆ テーマ

「～国際理解教育ってなに？ ワークショップを体験してみよう～」

◆ プログラム

★セッション1

- 1 主催者挨拶
- 2 アイスブレイキング 自己紹介
- 3 グループワーク 鎖国ゲーム
- 4 グループワーク 『交流』

★セッション2

- 5 開発教育・国際理解教育とは？
- 6 国際交流協会の紹介
- 7 JICA紹介
- 8 閉会

(2) セッション1

◆ 1 主催者挨拶 磯貝白日（JICA中部業務課）〈13:30～13:35〉

- 今回の講座にいたる流れの説明。
- JICAの教員向けの各種プログラムの紹介とその活用法（どのような継続的プロセスで参加者と関わりあいたいのか）の説明。
- 協会との共催の説明（留学生と市民グループの協働国際理解講座の研修を兼ねている）。

◆ 2 アイスブレイキング 自己紹介【日野】 <13:35~13:55>

自己紹介名刺づくり (個人)

- A4版の紙に3つのことを記入する。
- 呼んでほしい名前/お昼に食べたもの/この講座に参加した理由。何を求めてきたか

名刺をもとに自己紹介 (全体)

- 室内を自由に移動して1対1で、先ほど書いた3つの内容で、8分間で3人以上に自己紹介をする。

◆ 3 グループワーク 鎖国ゲーム【天野】 <13:55~14:40>

今朝、ここに来るまでにお世話になったものを書き出そう (個人)

- 各自、今朝ここに来るまでにお世話になったものをポストイットに書き出す。
(ひとつのポストイットには、ひとつのものを書く)

お世話になったものの分類分けをしよう (グループ)

- グループ内で、各自のポストイットを模造紙に仲間分けをして貼り、それぞれの分類に名前をつける。

ふりかえり (全体)

- どのようなポイントで分類したのか、代表2グループが発表。

- 大きく衣食住と人に分けて考えてから、まとめた。
- 分類しきれないものがあった。

今、日本が鎖国をしたら、何がなくなるか話し合う。(グループ)

- 「日本は鎖国しました」と発表されました。1日後、何がなくなるか、ポストイットを見て話し合い、なくなるものにマーカーでバツ印を入れていく。
- さらに1週間後、1ヵ月後、1年後になると…と考えていく。

ふりかえり (全体)

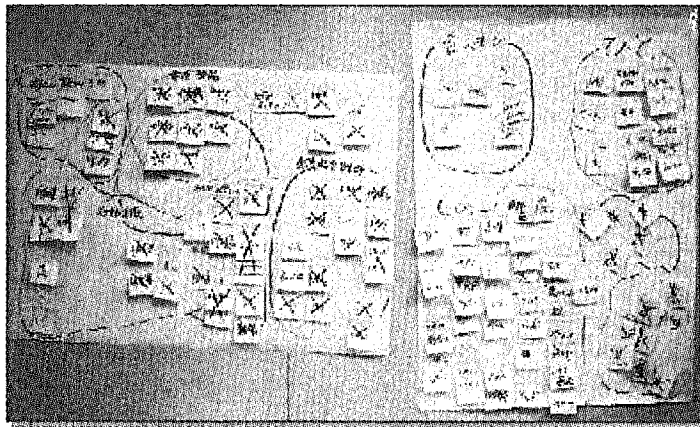
- 気づいたことについて、前回発表しなかったグループが発表。

- 日本は食料自給率が低いので、食べるものがなくなってしまい、生き延びられない。ここにいる人も5分の1ほどしか生きられない。
- やっているうちに暗くなってしまった。
- いかに多くのものに囲まれて暮らしているか、改めて考えさせられた。

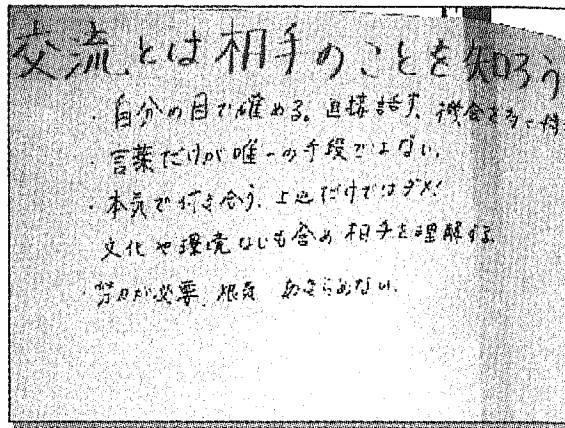
◆ 4 グループワーク 『交流』【天野】 <14:50~>

人と人との交流についてふりかえって考えてみよう。(グループ)

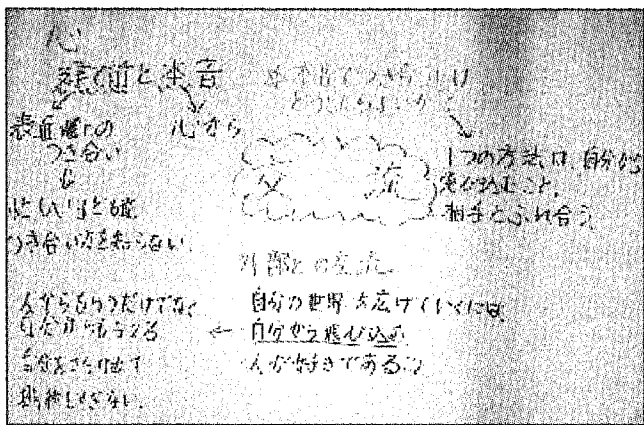
- よかった交流/悪かった交流/外国での経験のある人はその体験などグループで人と人のお付き合いについて、話してみる。



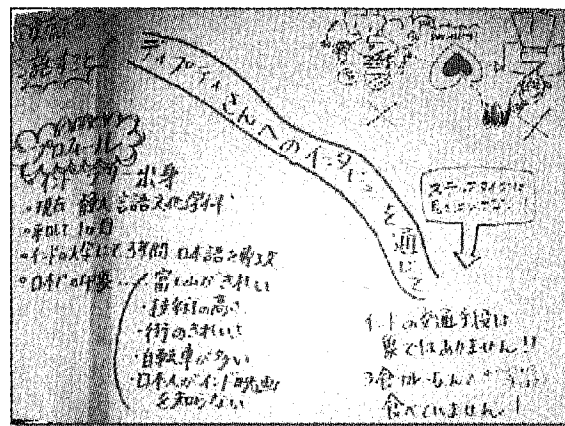
▲ ここに来るまでお世話になったもの



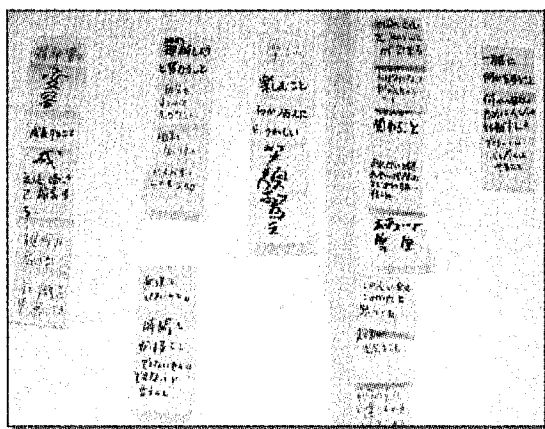
▲ 交流辞典4



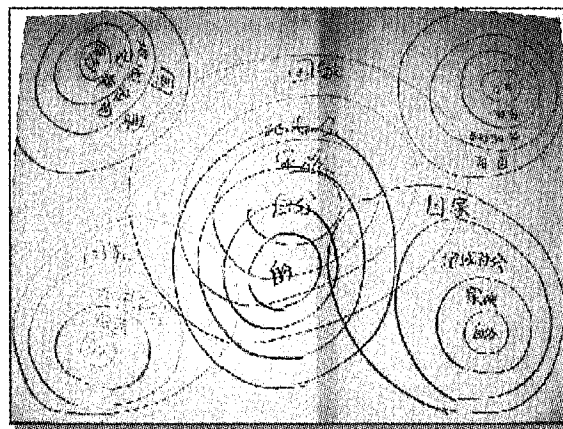
▲ 交流辞典1



▲ 交流辞典5

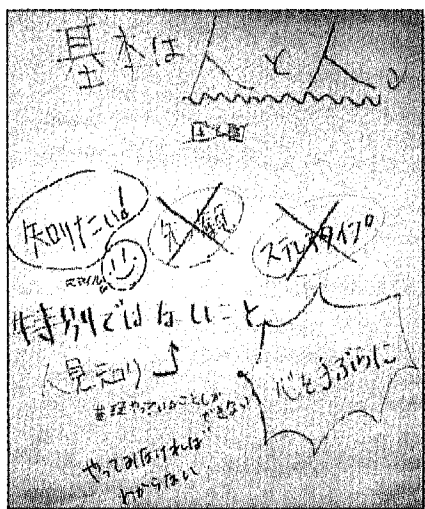


▲ 交流辞典2

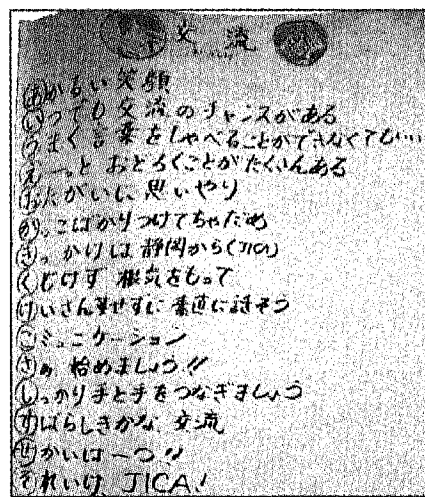


▲ 交流辞典6

グループ
ワーク
結果



▲ 交流辞典3



▲ 交流辞典7

話したことをまとめる。(グループ)

- 望ましい交流／交流とは／これからの交流についてなど、絵でも文でもいいのでまとめて、模造紙に書く。

まとめの発表 (全体)

- 交流とは。
- グループ内にいた留学生の話から、人と直接はなすことの大切さを感じた。
- 自分を取り巻く家庭・地域・国家間の距離から交流について考える。

(2) セッション2

◆ 5 開発教育・国際理解教育とは？【弓削】

- 開発教育・国際理解教育の扱う内容についての説明。
- 自分との関わりにおいて世界的な問題について考える。
- 参加型の取り組みをする。

◆ 6 国際交流協会の紹介【加山】

- ふじのくに親善大使を派遣し、国際協力を進める事業を行っている。
- 留学生と市民グループとの協働講座の紹介。

◆ 7 JICA紹介【甲斐】

- 開発教育・国際理解教育に関わる事業の紹介
- 教師海外派遣／高校生実体験プログラム／国際理解教育出前講座 など

◆ 8 閉会

2

静岡県実践講座のふりかえりシート

講座の最後に参加者に書いてもらった「ふりかえりシート」結果を示します。ふりかえった項目は次のとおりです。

- 1 参加してよかったことは？
- 2 期待どおりでなかったことは？
- 3 今後に向けて私がやることは？
- 4 ワークショップはよかったか？
- 5 ネットワークを作れたか？
- 6 その他

(1) 参加してよかったこと

「参加してよかったことは？」という問いに対し、具体的な意見は以下のとおりです。

◆ 具体的な意見

<教員>

- 留学生の方の話を聞いたこと。
- 国際理解について少しわかった。
- 前向きな素敵な人たちに会えたことです。
- いろいろな人と話げできたことです。
- 同じような気持ちの人に会えたこと。
- 知り合いにあえた。学校で講演していただける方が見づかりそうになった。
- 参加者のいろいろな考え、体験を聞くことができた。
- 交流に関して関心の高い方たちに会えたこと。
- 色々な国の方と生で話せたことです。
- 多くの人と話げできた（交流できた）こと。
- たくさんの人と話げできたこと。
- 自分の気持ちをさらけ出して話げできたこと。
- いろいろな方と意見を交わせたこと。
- 同じような立場の方と話げできた。
- 国際理解教育についていろいろな意見をきけたことです。
- 刺激になった。
- ワークショップで実際に使えるものを学んだ。
- いろいろな考え方や手法を知ることができました。
- 多くの方の話を聞くことができ、とても勉強になりました。外国の方と関わることだけでなく、今日のような体験こそ交流ではないかと思ひます。

<学生・一般>

- 日常生活をふりかえるきっかけになりました。
- 思った以上にグループワークがたくさんあつておもしろかつた。
- 国際理解教育初心者なので思ひの強い人たちと関われてよかった。
- 国際理解(交流)というのは難しいと考えるんじゃなくて人を知る(と向き合う)ということだと改めて思ひた。
- 色々な人の意見を聞くことができた。
- 自分なりの国際理解の定義が持てたことです。
- 人と人との交流から、国際交流について様々な人の意見が聞けたこと。
- 短い時間だったが内容は濃いものだったこと。

<留学生>

- いろいろな人と知り合つたこと。
- 「交流」と「国際交流」についてわかつてきた。
- 色々なことがはっきりされて勉強になりました。
- 多くの人とのふれあひができたのです。
- 国際交流の意味を理解していろいろ勉強しています。
- 交流についてのみなさんの考え方をわかるようになった。

<市民グループ>

- たくさんの人と会って知り合えたこと。
- いろいろなステキな方々と知り合えた。
- みんなに会えたこと。
- 今日のテーマに関心を持つ静岡県のあちこちから来た人と出会えたこと。
- 話を聞いただけだと思っていましたが色々な方の話が聞けてよかったです。
- みんなと交流できたこと。
- 浜松市内では学校国際理解教育にあまり力が入っていないように感じておりましたが静岡県全般では熱心な先生が多いと判り安心しました。

(2) 期待どおりでなかったこと

「期待どおりでなかったことは？」の問いへの具体的な意見は次のとおりです。

◆ 具体的な意見

<教員>

- 前向きすぎる。展開が早すぎる。
- 今回はあくまでも国際理解のさわりでありもう少し具体的に勉強したかった。
- 時間が短すぎたことです。もっと長くいたかったです。
- 甲斐さんがあんまり体験談をお話してくれなかった(忙しそうだったですね。でもとてもたのしい時間を過ごせました)。
- アクティビティの全体の流れが見えにくかったことです。
- 実際授業でどのように取り扱っているかはわからなかった。
- 当面の問題点を話し合える時間がなかったこと。
- 自分なりに講座の目的を理解しきれなかったので何を学べばよいのかわからなかったこと。
- もう少し国際理解教育に即使えるような具体的活動を知りたかった。
- 授業の具体例がなかったこと。
- もう少しかたくならずにコミュニケーションがとれればよかったです。
- 授業でどう取りあげるかについて、もっと話をしたかった。

<学生・一般>

- あまり話せなかった。
- 時間がもう少しほしかった。
- もっと自分からも意見を出せればよかった。
- もう少し多くの人と話をしたかったこと。

<留学生>

- 皆によく交流できたので言うことはありません。
- 時間が短かったことです。
- 交流について個人的な経験が上手なところ苦手なところ・・・。

<市民グループ>

- とても楽しかったことです。
- 具体的な情報が少なかった。
- 眠くなるように長いお話じゃなかったこと。
- JICA のプログラムが教員や学校優先なのでもっと一般にも門戸を開いてほしい。

(3) 今後に向けて私がやること

「今後に向けて私がやることは？」への回答は次のとおりです。

◆ 具体的な回答

<教員>

- まず興味を持つこと。
- 自分が積極的に本気で勉強する。
- 自分で勉強を重ねて、少しずつ発信していくことです。
- 若いうちにいろいろなものを吸収できるうちになるべくいろいろな刺激を良質な授業を提供したい。
- 高校生（ある程度意識の高い生徒）に刺激を与える活動を考えることです。
- 一緒に企画・運営できる人を見つけ(育て)ること（職場内で）。
- 今日の体験を学校の中で生かす。
- 地域の外国の方たちとコミュニケーションをとっていく。
- 来週、静大の留学生との交流を成功させる。
- このような会に多く参加することです。
- 今日経験したことを自分なりに消化して生かしていくこと。
- 国際交流をテーマに総合学習の単元を作り出していくこと。
- 交流は人と人、現在学習中のスペイン語を臆せず話せるようになりたい。そのためには、普段から「心を手ぶら」に人と接していく。
- 国際交流の意味をこれからも問いつづけること。
- もっと世界に目を向ける。
- 日常生活の中で子供と国際的なテーマへとふれながら話していく。
- 日本や外国のことをもっと知ること。
- 子どもたちに少しでも国際理解を伝えていく。
- どのようにして国際理解教育を推進していくのかとか自分自身がどう心を開き交流するか。
- こどもに今日のことを話す。
- 深く研究していきたいということです。いろんなことへの理解を意欲的にする。

<学生・一般>

- 自分が関わっている人にありがとうの気持ちを伝えたい。
- 今後もこのような講座に参加していきたいと思う。
- このような会に多く参加する。
- まず自分を知ること、そして“心を手ぶら”に人と向きあうこと。
- 今日得た意見等をふまえ、自分なりの考えをまとめる。
- もっと色々な人たちと素でつきあうこと。
- 今日考え、聞いたことをまとめ、自分の考えの見直しや比較をしたい。
- 自分の経験を生かし次の世代に伝えていけたらいいなあ。

<留学生>

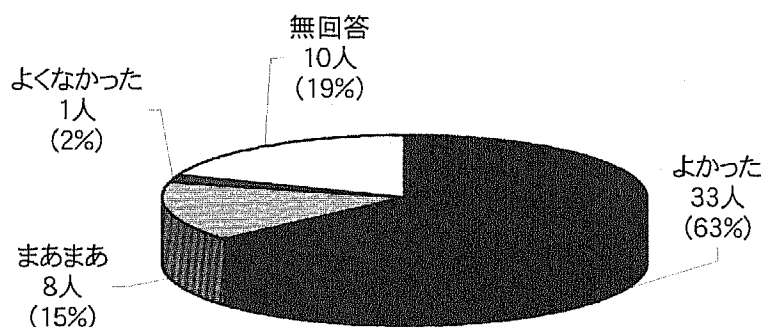
- もっと積極的に人とつきあおう。
- できる限り日本のことを知り自分の国のことを外国の方々に教えること。
- 交流が増えるようにこのように参加したいと思います。
- より多くの人と話すことです。
- 日本人やいろいろな外国の方と本気で交流したいと思います。
- 交流を通じて自分がわかった勉強できたことをまた他の人に伝えたいことです。

<市民グループ>

- ますます今の活動を続けていくこと。
- 地域の国際理解事業を推進し企画活動を活発に行いたい。
- 地域の国際交流を豊かにしていくこと。
- 今日体験したような参加型の協力隊活動報告会をめざす。
- もっともっと地域の人、学校の方、外国の方と交流できるように活動したいです。
- 年齢を問わず参加できる交流の場を作ること。
- これまでどおり国内外を問わず私は人との出会いに恵まれているので、一人占めせずに皆さんに紹介し続けたい。

(4) ワークショップへの評価

「よかった」が最も多く63%となっています。また、具体的回答は以下のとおりです。



◆ 具体的な回答

<教員>

- 疲れた。明るく、仲良く、元気よくの押し付けが大きすぎる。ふつうの"人と人とのつき合い"をしたければ、1対1で2~3年は必要だと思う。それは"国際"は関係ない。問題解決をしたいなら、目的・具体的手段等を考えるので、あのようなゲームではなく、政治・外交の方法を考えることになると思う。小学生向けにはいいかと思う。
- 鎖国に関しては心から落ち込んでしまいました。その分世界との関わりの大切さが実感できました。
- 学校に戻って授業でも使えそうでよかった。
- 国際交流に自ら参加している人たちなのでとても話がしやすく有意義でした。
- 気軽に参加できて良かった。参加して楽しい。
- まず無料でこのような研修を受けさせて頂いてとても助かりました。
- 人の考えを聞くことは自分の視野が広がります。すてきな時間を過ごすことができました。
- いろいろな方と話ができた。
- インドからの留学生の話がよかった。
- ワークショップで人と交わることを同時に体験でき国際理解教育の核となるものも学べたと思う。
- 自分の授業には生かせないのが残念。どう応用すればいいか考えたい。
- やって楽しいけれどすぐ使わないと忘れてしまうので実践したい。
- ワークショップの直接体験ができたこと。

<学生・一般>

- ファシリテータの発問が漠然としていて考え込んでしまうことがありました。が、朝からの自分の1日を見直してみるのはおもしろかったです。
- 今日やったワークショップをどこかで役立てたいと思う。

- 初めてだったのって。この体験を体験で終わらせないためにはどうすればよいのか考えたい。
- 日本の学校の子供たちがこんなワークショップを授業で受けられたらすごく子どもたちにとって発見の多いものとなると思う。なぜなら私自身たくさんのかんじを学び取ることができたと思っているから。
- 時間が足りない（まとまりきれなかった）。
- 自分が教師になったときに役立ちそうです。
- 初めは不安でしたが自己紹介ゲーム等を行って固さを取り払えたと思います。
- 今後もこういった機会に出会えたら参加したい。

<留学生>

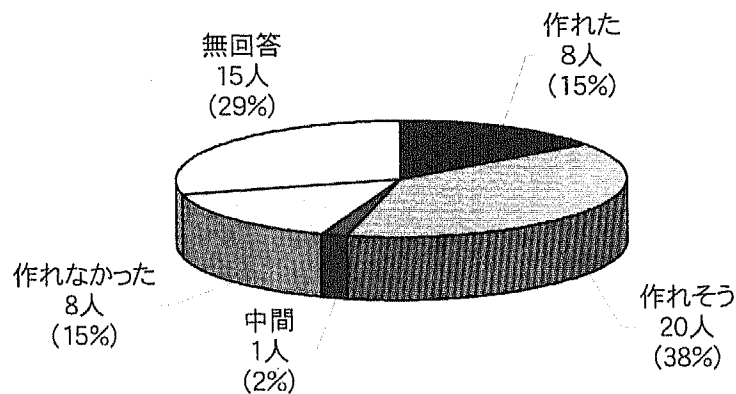
- 自分も勉強になりました。
- 活気あふれ新鮮な話を聞くことができた。
- 詳しく説明してもらっていい雰囲気の中で。
- 簡単なゲームを通じて地球中の物の大事さをもっと深く感じた。

<市民グループ>

- ワークショップの進め方が参考になった。
- たくさんの経験をもった人々に会えて会話することができて最高に嬉しかったです。
- もりだくさんでおもしろかったです。知らない人たちと話げできたのが大きな収穫でした。ワークショップはおもしろい意見が聞けたのですがよかったです。慣れていないせいにかそれによって学ぶべきものというのがはっきり実感できませんでした。
- 交流がテーマでしたが一言で交流と言っても奥が深いので色々勉強になりました。
- 思っていたほど堅くなくて楽しめました。

(5) ネットワークづくりは？

「ネットワークは作れたか？」という問いに対し、「作れそう」という人が最も多く 38%、「作れた」という人と合わせて5割を超えています。具体的回答は以下のとおりです。



◆ 具体的な回答

<教員>

- 一回会っただけの人たちと無理やりネットワークをつくるのは・・・。
- 時間的に無理でした。
- 今日の名前でなく名前を使っていればよかったかと思いました(今回は時間がなくなったので)。
- 無理に作らなくてもこれからできていく人もあるかもしれない。
- グループに分かれた後アイスブレイキングの時間が欲しかったように思います。
- 楽しく話げできたがネットワークとなると。
- 作れたらいいな。

- 資料をいただいたのでそれを生かして“作るようにしていきたい”
- ネットワークを広げ大切にしたい。
- またこういう機会を得られればネットワークは強くなると思う。
- 自分の授業に生かすにはどうすればよいのか。もっと勉強したいと思いました。
- たった3時間なので難しい気もする。留学生と話せたのはよかった。
- 最後の懇談が削除されたことでした。情報交換することでネットワークがとれたのではとも思います。
- 他の先生方の授業の様子など今後伺いたい。
- このような会に続けて参加していくことで。

<学生・一般>

- 自分自身ひっこみじあんの日本人なので。
- 今日得たものを持ち帰って身近なところから実践していこうと思う。
- すごく楽しくて色々なことを吸収させていただきました。

<留学生>

- キッカケがあれば。
- 外国人との交流会に参加するつもり。

<市民グループ>

- またお会いできるといいな。
- 東部でも定期的にこのような研修があるとよいと思います。静岡市内ではチャンスが多いかもしれませんが東部（富士）では少ないかなあとと思います。国際交流を企画実施したい市民グループや留学生と講座を必要としている教育現場との接点が少ない、情報不足を感じます。
- 時間が少ない！
- 大事な話がダイジェストでよかった。
- これからもこのような機会を作って頂きたいです。

(6) その他の意見

その他の具体的回答は次のとおりです（お礼等は除く）。

◆ 具体的な回答

<教員>

- 今回、自分自身がこういう外国人との関わりがなく、問題意識もなかったので、グループワークなどがつらかったのだと思う。[留学生やALTとのつきあいはあるが、別段外国人と意識したことがなかったので(言葉や生活文化のちがいくらい)、何が「交流」で問題なのか、わからない]。政治、外交上で衝突があるのは教科書、ニュースで知っている。経済格差と言われるものもある。国が違う人どうしのつきあいの場合、乗り越えたい壁・持つべき意識だと思う。
- 国際教育、国際理解教育には含まれないかもしれないが。
- 具体的な授業案(モデル)などがのっている冊子があったら沼津商業高校まで送っていただきたいです
- 実体験プログラム同様充実した時間を過ごすことができました。ありがとうございました。
- 100人の村の授業案がほしいです。コピーでも良いのですがこんどFAXしてくれませんか。すみません。
- 留学生の方も交えてアクティビティを体験できてよかったです。「人と人」の交流を実践できました。運営して下さったスタッフのみなさんに感謝します。どうでもよいことですが…。
- 名札としたシールがとれやすく困りました。
- 今度は職場の同僚と参加してみたいと思います。
- 国際理解教育を総合の時間など授業に限定して考えていたのですが、もっともっと広い意味でとらえれば今までにもいろいろ関わってきたと気づきました。自分の経験をもっと生徒たちに伝えてもいいの

だと確信しました。

- 国際理解教育という教科はありません。学校での教育に限定すればですが…。では何の時間で教育をするのかと考えれば学校では総合です。ところが総合的な学習の目標は国際理解教育のねらいと少しずれがあります。総合的な学習では、自分の生き方を中心に教科などの学習を生かす能力を育てることに重点が置かれているからです。とすれば国際理解のエッセンスを生かしながら総合的な学習を組んでいく研究が必要になってきます。現在そのことを研究中ですが、難しくてお手上げ状態というのが本音です。そんな時この会に参加させていただいて"やらなきゃ"という気持ちが湧いてきました。ありがとうございました。
- ワークショップの中で自分の世界が狭くなりがちとあったけれどその通りだと感じました。自分のいる世界だけで満足しているのなら別だかもっと広めたいなら“自分から飛び込む”ということが大事です。今日はこの会に自分から参加してよかったと思いました。
- 世界の中の日本を感じた。
- 国際理解に限らずいろいろな国、年代、職種の人と同じ時間を共有し話すことで「交流」は生まれ育っていくものだと思う。国際というとか特別な枠組みのようだが実は「相手と知り合いたい」という思いからすべてが始まるのだということも今日のワークショップを通して感じた。
- またこのような機会があったら参加したいと思います。クラスの子どもたちにも自分の身の回りから世界へと視野を広げられるような話をしていきたいです。
- いつも楽しみにしている講座です。人数がとて多くてびっくりしました。なかなか国際理解の情報が得られないのでありがたいです。
- この会の記録はどうしますか？・アクティビティのまとめた意見などを関係者側でまとめ配布するのは予定していますか・会費はとらなくていいのですか・紙代お菓子ジュース代など・アクティビティを進めてくださった方の姿勢がすばらしかったです。話し合いが盛り上がっているグループに笑顔を持って間をつなぎ静かになるのを待つ姿勢にです。

<学生・一般>

- 今後もこのような機会をもうけていただきたいです。グループで話していただけたのですがみなさん抱えている悩みは共通しているような気がします。このような悩みを話しあう良い機会をありがとうございました。
- 私は学生でまだこのようなワークショップを大勢の子どもたちや大人の人たちに広く伝えることはできないけれど、今日考えて、学び取ったことは自分なりに実践していきたい。
- 飛び入りでしたが席を作ってもらえて本当に感謝しています。ありがとうございました。
- 良い卒論を書きます。
- また機会があれば参加したいです。先生方に囲まれてだったので、あまり発言できませんでしたが逆に高校生の意見というのは現在の高校生にしか言えないと思うのもっと意見を出したいです。

<留学生>

- 韓国でも今日みたいなワークショップがいっぱい行われたらいいなと思いました。みんないろんな人と交流したい気持ちがいっぱいなのに知らないからまたはキッカケがなくてということがあったけど今日のようなプログラムで気がついたり理解ができたりするのでどんどんふえてほしいです。
- 国際交流って硬い言葉ですが日常の生活でも常にopenな心が一番大事なことだなと思いました。
- こんなふうに交流を続けたいと思います。
- 今日は朝からバイトもあってさらに風邪もひいてここに来る気もなかったのですがみんなといろいろ聞かれたり言わせてもらったりするうちに元気ができました。また中国に行つて実際仕事をなさった人からも中国人や感想について聞いてもらってうれしいです。日本でたしかに中国人はいろいろ悪いことをたくさんしているので恥ずかしいですが実際に中国で生活してきた日本人から話を聞いてみると中国にもいいことはたくさんいるということですのでもっと交流をして他国を知ったらよいのではないかと思います。

ています。

<市民グループ>

- 運営方法がとてもスムーズでよかったです。県国際交流協会と JICA の方々の活躍がとても好印象に残りました。
- 国際交流協会に入って半年なのでまだまだわからないことが多いですが今日参加して“交流”という意味が少し理解できました。今後機会があれば色々勉強したいので参加したいです。
- 特に今日で何か変化があったわけではありませんが自信が持てるようになりました。これまでの活動に胸をはって取り組んでいきます。横浜市に「かながわプラザ」という施設の中に国際理解教育専門の設備があります。そのように常に情報を発信できる「ハード」があるとよいと思います。

3

静岡県実践講座準備会の打合せ経過

静岡県実践講座準備会は、次のとおり打合せし、実践講座の企画立案、運営準備などをしてきました。

回	日時・場所	出席者	打合せ項目
1	8月5日(火) 15時～16時15分 (財)静岡県国際交流協会内	弓削、加山、磯貝、甲斐	講座の基本的事項
2	8月28日(木) 15時30分～16時30分 (財)静岡県国際交流協会内	弓削、加山、磯貝、甲斐	講座のねらいについて
3	10月9日(木) 16時～17時 (財)静岡県国際交流協会内	天野、加山	ワークショップ内容検討
4	10月16日(木) 10時～12時 静岡市教育センター	天野、弓削、日野、加山、 甲斐	全員でプログラム内容確認
5	10月20日(月) 16時～17時 (財)静岡県国際交流協会内	天野、加山	ワークショップ内容検討
6	10月25日(土) 17時30分～18時30分 静岡駅前辺喫茶店	天野、弓削、日野、加山、 宮田、鈴木、磯貝、賀島、 甲斐	スタッフ反省会

4

静岡県実践講座の資料

静岡県実践講座に向けて作成した次の主な資料を添付します。

◆ 資料名

- 資料1：募集チラシ [2ページ]

<開発教育実践講座>

～国際理解教育ってなに？ ワークショップを体験してみよう！～

主催：JICA 中部

共催：財団法人 静岡県国際交流協会

後援：静岡県教育委員会(予定) 静岡市教育委員会(予定)

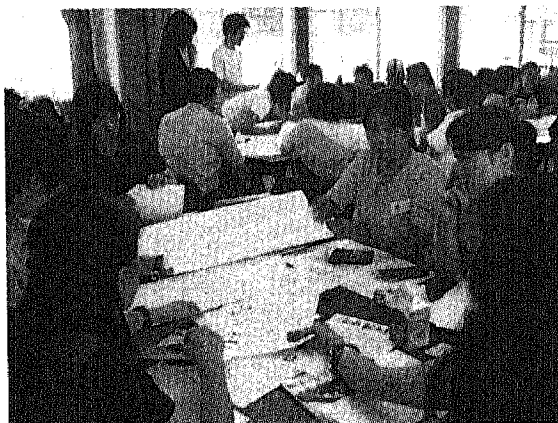
日時：平成15年10月25日(土)13:30～16:30 (受付 13:15～)

場所：静岡県商工会議所会館 302会議室 (静岡市黒金町20番地の8)

(JR・静岡駅徒歩10分:別添地図参照)

対象：小・中・高校教員、市民グループ、留学生、在住外国人、学生、一般

<開発教育(国際理解教育)に関心があり今後取り組みたいと考えている初心者の方々、教育現場等に国際理解講座を今後提供していく可能性のあるの方々>



平成15年9月/開発教育指導者研修

「総合的な学習の時間」導入後、国際理解教育への関心が高まっています。そのような中、関心はあるけれどもどのようにアプローチをしたらよいのか検討している先生方と国際理解講座を提供していく方々とともに、ワークショップの体験をとおして『国際理解教育』を考え、授業に役立つ情報や手法を紹介していきます。開発教育(国際理解教育)に関心のある先生方のご参加をお待ちしています。

プログラム(予定)

- 13:15～ 受付
 13:30～13:35 主催者挨拶
- 13:35～15:35 「国際理解教育について考えるワークショップ」
 ファシリテーター：天野恭子氏
 (静岡県立静岡東高等学校他講師/青年海外協力隊 OG)
 サブファシリテーター：
 加山勤子氏(財団法人静岡県国際交流協会)
 日野百合子氏(静岡市教育センター)
- 15:35～15:50 「国際理解教育とは？」
 講師：弓削幸恵氏(静岡市教育センター)
- 15:50～16:05 県内で活用できる国際理解教育教材や実践例の紹介
- 16:05～16:25 質疑応答・意見交換・懇談会
 16:25～16:30 アンケート記入
 16:30 閉会

【申し込み方法】

別添の申込用紙に必要事項をご記入いただき、以下の申込先にFAXもしくは郵送で申込下さい。電話、Eメールでも結構です。

【申し込み・問い合わせ先】

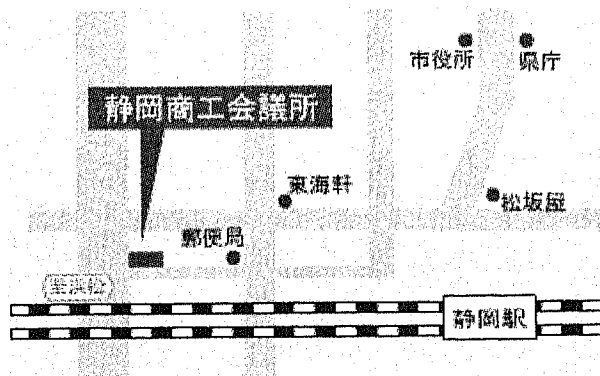
財団法人 静岡県国際交流協会

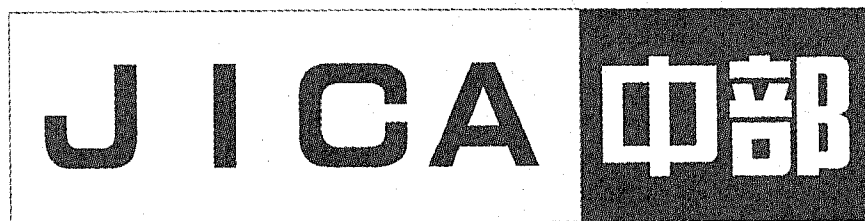
〒420-8601 静岡市追手町9-6静岡県庁西館4階

TEL :054-221-3355 FAX:054-251-8148

担当 :JICA 国際協力推進員 甲斐 e-mail:Kai.Hisako@jica.go.jp

【会場案内図】





X. JICA中部の関連支援事業

X. JICA中部の関連支援事業



「JICA TIME」でのパワーポイント

第3回研修時に発表した「JICA TIME」でのパワーポイントを示します。

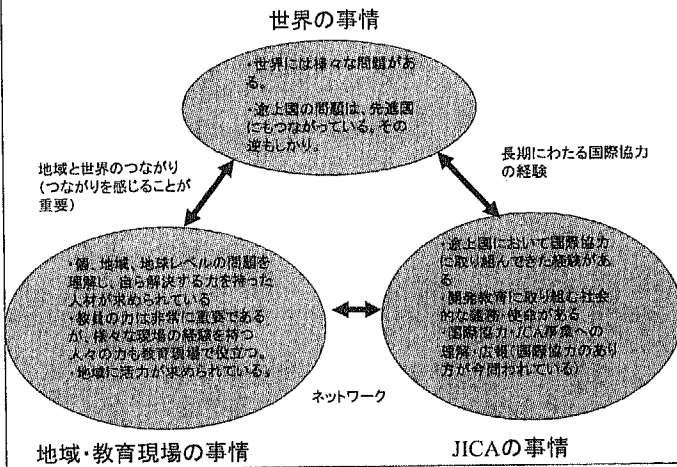
平成15年開発教育指導者研修
 JICA中部国際センター
 の開発教育、国際理解教育
 支援事業について
 ～「築き」をテーマに～

JICA中部国際センター業務課
 職員白日

本日の内容

- ① JICA中部国際センターにとっての開発教育、国際理解教育支援事業とは？
- ② 何を目標として取り組むのか？
(平成15年度を中心に)
- ③ 開発教育指導者研修と実践講座について
- ④ 具体的な動きと事業紹介

① JICA中部国際センターにとっての開発教育事業とは？

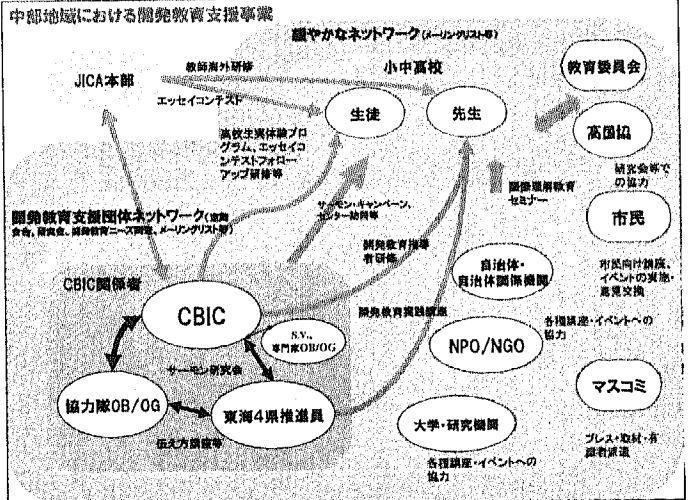


10月1日
 JICAは独立行政法人化します！

- ・ 国際協力事業団→国際協力機構へ
(JICAはそのまま使います)

従来の事業に加えて、「平和構築」、「国民・市民参加事業(開発教育、国際理解教育)」が新たな事業の柱として加わります。

② 何を目標として取り組むのか？ (平成15年度を中心に)



X JICA中部の
 関連支援事業

平成15年度主体別CBIC開発教育支援プログラムの目標

なお、年1回「国際理解教育セミナーinなごや」を全員を対象に開催する

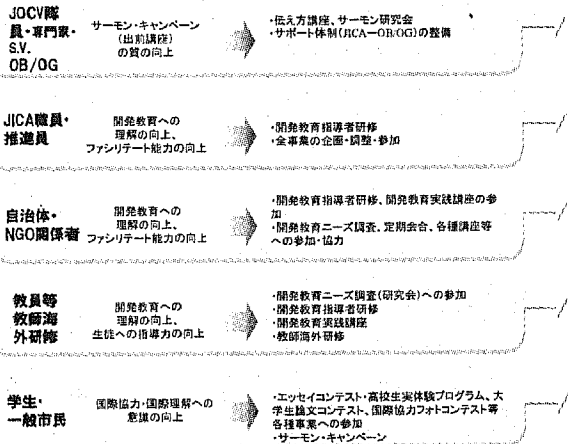


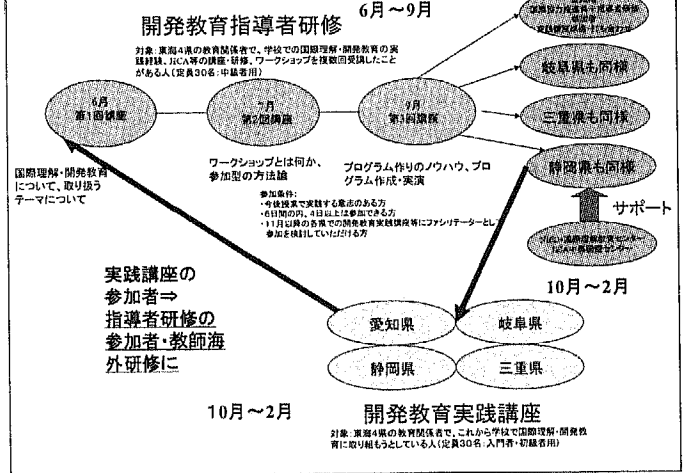
図4 平成15年度CBIC開発教育プログラム対象別レベル別メニュー

	教員	学生	JICAボランティアOB/OG	専門家OB/OG	NGO・自治体	一般市民	JICA職員・推進員
上級							
中級	開発教育指導者研修/海外研修	サーモン・センター訪問/エッセイ/実践プログラム/大学生論文	開発教育指導者研修(オブザーバー)、サーモン・キャンペーン研究会	開発教育指導者研修(オブザーバー)	開発教育指導者研修(オブザーバー)	サーモン・キャンペーン	サーモン・キャンペーン研究会/開発教育指導者研修
初級	開発教育実践講座/海外研修	サーモン・センター訪問/エッセイ/実践プログラム/大学生論文	開発教育実践講座(オブザーバー)、伝え方講座	開発教育実践講座・伝え方講座(オブザーバー)	開発教育実践講座(オブザーバー)	サーモン・キャンペーン	開発教育実践講座
入門	国際理解フォーラムinなごや	サーモン・センター訪問/エッセイ	国際理解フォーラムinなごや	国際理解フォーラムinなごや	国際理解フォーラムinなごや	国際理解フォーラムinなごや	国際理解フォーラムinなごや

*ビデオ・フォトランゲージの貸し出し、資料提供も実施
 *各種フォーラム・イベントも実施

③ 開発教育指導者研修と実践講座

図3 平成15年度教師対象講座概要



開発教育実践講座の
 ファシリテーター・企画立案ご協力
 へのお願い①

実践講座スケジュール予定

- ・ 10月25日(土)静岡
- ・ 11月15日(土)三重
- ・ 12月 6日(土)愛知
- ・ 2月 7日(土)岐阜

その他 開発教育地域セミナーin高山
 (11月29、30日)

開発教育実践講座の
 ファシリテーター・企画立案ご協力
 へのお願い②

- ・ ご協力いただける方は、事前打ち合わせと当日のプログラム・ファシリテーターとして参加していただければと思います。
- 一「打ち合わせの交通費」と「当日の謝金・交通費」を償いながらですが、お支払いします。JICA中部もNIEDも必要に応じてもちろんサポートします。

協力してもいいよという方は、アンケートにその旨、ご記入下さい。
 各県の国際協力推進員より、講座準備開始時に案内致します。

今回は時間的に企画段階から入るのは難しいという方や、ご都合があわないう方も、当日の参加や今後の各種イベントでのファシリテーターとしてのご協力お待ちしております。

また当方の企画での実践だけではなく、もし他の講座や学校現場での実践ありましたら、是非ご報告下さい。もしよろしければ報告書等にも掲載させてもらえればと思います。

③具体的な動きと事業紹介

図5 平成15年度サーモン・キャンペーン(出前講座)について

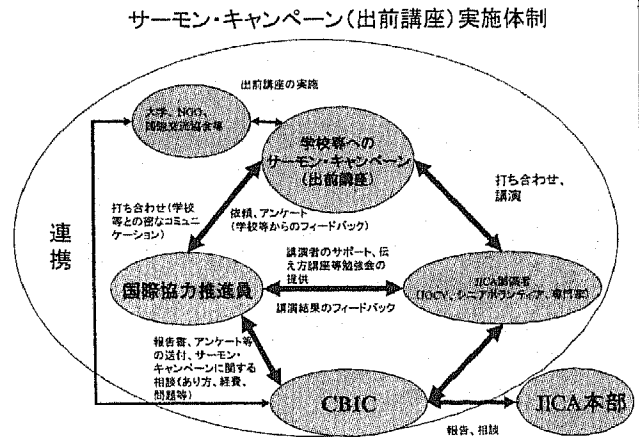


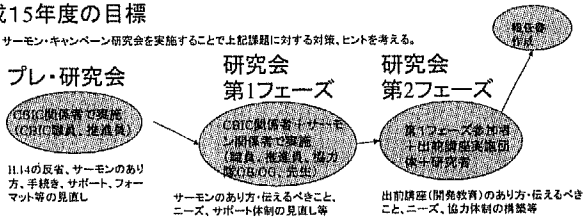
図6 平成15年度サーモン・キャンペーン(出前講座)について2

○平成14年度の課題

- ・件数的には、1.7倍増。しかし件数をこなすだけで、講演の質の上には着手できず、派遣国紹介のみに終わるケースも。
- ・サーモン・キャンペーンに関して何のために、何を伝えるものなのかをJICA内で議論してこなかった。
- ・件数の増加による事務手続きの量の増大について、対策を講じなかった。
- ・依頼書、アンケート、報告書について学校側のニーズ、講演の質についての改善フォーマットとなっていない。
- ・学校側、講師へのサポートについて、JICA側にもうがある。
- ・複数の団体(大学、NGO、国際交流協会等)が学校等への出前講座を実施しているが、後の連携がなく、学校側、生徒等へ多少なりとも混乱を生じる状況である。
- ・土、日完全週休二日制、総合学習の本格的導入に伴う研修員の平日派遣へのニーズ増大に対応できている。

○平成15年度の目標

サーモン・キャンペーン研究会を実施することで上記課題に対する対策、ヒントを考える。



その他にも・・・

- ・ 中学生・高校生エッセイコンテスト
 - ・ 高校生国際協力実体験プログラム
 - ・ 開発教育ニーズ調査
 - ・ ビデオ、パネル等の貸し出し
 - ・ 各種イベント、講座の実施
- (詳しくは、JICA中部の開発教育メニューをご覧ください)

最後に・・・

- ・ 本日はJICAの動きを中心に話しましたが、何よりも21世紀に生きる「子どもたち」のため、また「地域」一体となって国際理解教育、開発教育に取り組むことが重要と考えております(築きたいこと)。
- ・ 私たちの開発教育支援事業も平成11年にサーモン・キャンペーン(出前講座)をはじめてまだ数年です。少しでもいいプログラムを作れるようがんばりますので、現場の皆様のご意見、ご要望、ご利用をお待ちしております。



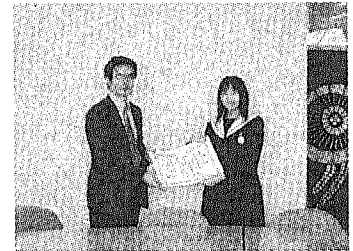
JICA 中部の国際理解教育・開発教育支援事業

独立行政法人国際協力機構中部国際センター（JICA 中部）は、開発途上国への政府援助（ODA）の実施機関として、青年海外協力隊やシニア海外ボランティア、技術協力専門家等の派遣、開発途上国からの技術研修員の受入などを実施している JICA の中部地区における拠点です。当センターでは以下のような国際理解教育・開発教育の支援事業を行っています。

■■■学校の現場で活用できるプログラム■■■（新着イベントや申込みフォーマットは、ホームページに掲載しますので、ご覧ください。
<http://www.jica.go.jp/worldmap/toukai.html>

♪中学生・高校生エッセイコンテスト ～エッセイを書いて国際協力を考えてみよう！～

JICA では毎年中学生・高校生を対象にエッセイコンテストを開催しています。国際社会の中で日本は何をすべきか、また、私たち一人一人がどう行動すべきかなどについて考えてもらうことを目的として、国際協力に関するエッセイコンテストを毎年開催しています。上位入賞者には海外旅行のプレゼントがあり、その他にも各種賞を用意しています。



賞状を渡される受賞者

テーマ：開発途上国や国際協力について考えていること

枚数：中学生－400 字詰め原稿用紙 3 枚以内（B4 サイズ）

高校生－400 字詰め原稿用紙 4 枚以内（A4 サイズ）

募集期間：募集期間：5月1日～9月17日（平成16年度予定）

特選・準特選・審査員特別賞、優秀賞受賞者には副賞として海外旅行（平成 15 年度 フィリピン、中国、ベトナム等）

♪JICA 国際協力出前講座



みんなで民族衣装を試着！

「JICA 国際協力出前講座」とは、青年海外協力隊の OB・OG や JICA 職員などの国際協力の経験者が講師として、学校などに伺い、現地での活動体験やそれに基づいた国際協力についてなどを講演します。国際協力の現場を実際に体験した人のお話を聞くので、とても楽しいものです。また、JICA 中部に滞在して様々な分野で研修を受けている開発途上国からの研修員もあなたの学校に伺います。

講師：青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの経験者・JICA 中部に滞在している研修員・JICA 職員など

講演テーマ：開発途上国の文化や人々、国際協力、青年海外協力隊・JICA の仕事についてなど

JICA 国際協力出前講座のホームページには各学校を訪れたエピソードが掲載されています！

<http://www.jica.go.jp/branch/cbic/jigyo/kaihatsu/index.html>

JICA 国際協力出前講座のお申し込み・お問い合わせは各県の国際協力推進員にお尋ね下さい。

■■■学校の先生方を対象としたプログラム■■■

♪小学校・中学校・高校教師海外研修

JICA では小学校・中学校・高校の先生方を対象に、開発途上国における国際協力の現場を知っていただくために海外研修旅行を行っています。この研修は、学校の先生方に開発途上国の現状と JICA 事業を始めとした国際協力への理解を深めていただく機会を設けることにより、次の世代を担う人材を育てる先生方の実践に役立てていただくことを目的としています。

実施時期：7月28日～8月9日（平成16年度予定：現地滞在9日間）

参加資格：授業・又はクラブ活動などで国際理解教育・開発教育を実践されている先生

派遣国：ガーナ・マラウイのいずれか（東海4県・北陸3県）

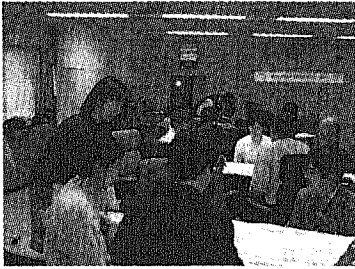
募集時期：4月～5月末（平成16年度）

申込み：巻末の問い合わせ先まで募集要項をお取り寄せ下さい。



協力隊員の紹介により家庭訪問！

♪教師対象講座(開発教育実践講座、開発教育指導者研修)



国際理解教育・開発教育に関心のある中部4県の小・中・高校教師、教育委員会職員、自治体職員、NGO・NPO職員、青年海外協力隊OB・OG等を対象として、授業で開発教育を行うためにワークショップの体験や実演、先駆的な取り組みの紹介、開発教育の概念説明などを行います。いずれも内容は、国際理解教育・開発教育の授業での実践を目的として、ワークショップの体験・実演、先駆的な取り組みの紹介、開発教育の概要説明等です。

開発教育実践講座(入門編・初級者編)

実施時期: 静岡市(11月6日)、名古屋市(11月21日)、岐阜市(6月5日)、
津市(7月27日)(平成16年度予定)

講師: 国際理解教育・開発教育に関心のある中部4県の小・中・高校教諭、教育委員会職員、自治体職員、NGO・NPO職員、青年海外協力隊OB・OG等

実施場所: 静岡市～津市(平成16年度予定)

参加者: 国際理解教育・開発教育に関心のある中部4県の小・中・高校教師、教育委員会職員

開発教育指導者研修(中級者編)

実施時期: 年1回(1泊2日4回: 6月12、13日、7月17、18日、9月4、5日、
1月22、23日: 平成16年度予定)

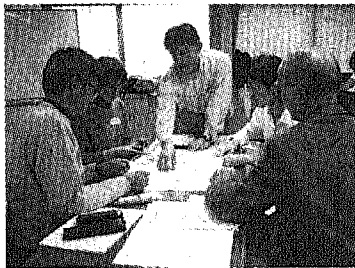
※開発指導者研修は、1泊2日の4回シリーズで行います。

実施場所: 名古屋市

参加者: 国際理解教育・開発教育に関心のある中部4県の小・中・高校教師、教育委員会職員

募集時期: 4月～5月末(平成16年度)

申込み: 巻末の問い合わせ先まで募集要項をお取り寄せ下さい。



先生方も真剣に講座を受講中!

■■■JICA 中部をのぞいてみませんか? ■■■

♪高校生国際協力実体験プログラム

JICA 中部では毎年夏休み期間を利用して「高校生国際協力実体験プログラム」を実施しています。

平成15年度は8月25日～27日の2泊3日の日程で東海・北陸地方の各県から8校40名の高校生と引率教師がJICA 中部に宿泊し、世界の料理試食体験、研修員との懇親会、国際理解をテーマとしたゲーム、ケーススタディ、研修コースの見学など行っています。

実施時期・期間: 8月25日～27日(2泊3日: 平成16年度予定)

実施場所: 当センター

参加校: 東海北陸地域の7県から募集。(1県1校が原則)

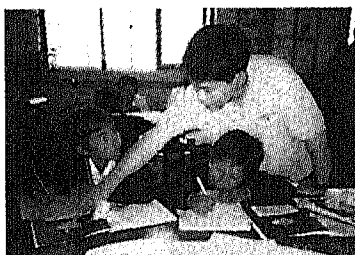
1校につき生徒男女2名ずつ、引率教師1名の計5名 7校35名を募集

参加費用: 無料(JICA 中部への往復費用も当センターが負担します)



初めての手づかみ食事体験!

♪パネル・ビデオの貸し出し



このようなパネルがあります

JICA 中部では国際理解教育・開発教育の授業での使用や、一般の人々にも利用していただけるよう、広報用のビデオ・パネルの貸し出しサービスを行っています。

パネル: 東海4県出身の青年海外協力隊、シニア海外ボランティアなど各種ボランティアの方々の活動の様子を写した写真パネル、開発途上国の情景を伝える写真パネル等

ビデオ: 各種ボランティアやJICA事業の活動紹介

↓最新のリストはこちらのホームページをご覧ください。

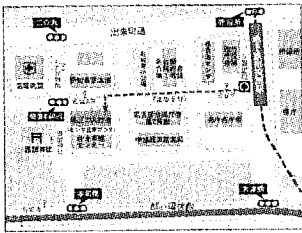
http://www.jica.go.jp/branch/cbic/jigyoku/kaihatu/rental_list.html

■ ■ ■ お問い合わせ先 ■ ■ ■

♪ 東海 4 県の JICA の窓口

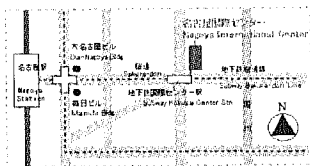
東海地方の各県に、より身近な JICA の窓口“国際協力推進員”が配置されています。お気軽にお問い合わせください。

愛知県の方は・・・



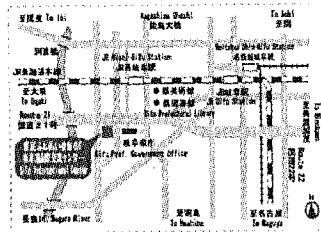
(財)愛知県国際交流協会内 JICA 国際協力推進員 秋田のぶ子(あきた のぶこ)
〒460-0001 名古屋中区三の丸 2-6-1
愛知県三の丸庁舎内(地下鉄名城線市役所駅より徒歩 5 分)
TEL: 052-961-7904 FAX: 052-961-8045
メール:jicadpd-desk-aichiken@jica.go.jp

または



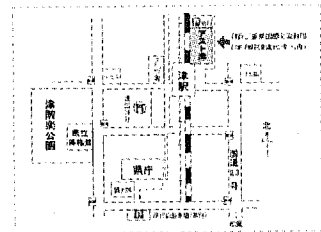
(財)名古屋国際センター内 JICA 国際協力推進員 藤原久道(ふじわら ひさみち)
〒450-0001 名古屋市中村区那古野 1-47-1
(名古屋駅から東へ徒歩 7 分、または地下鉄桜通線国際センター駅で下車)
TEL: 052-581-5691 FAX: 052-581-5629
メール:jicadpd-desk-nagoyashi@jica.go.jp

岐阜県の方は・・・



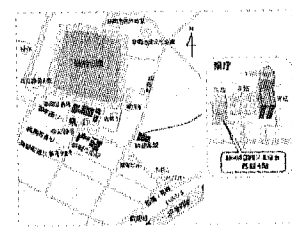
(財)岐阜県国際交流センター内 JICA 国際協力推進員 古田敦子(ふるた あつこ)
〒500-8384 岐阜市藪田南 5-14-5 岐阜県民ふれあい会館 6 階
(西岐阜駅から無料バス)
TEL: 058-276-4459 FAX: 058-272-8839
メール:jicadpd-desk-gifuken@jica.go.jp

三重県の方は・・・



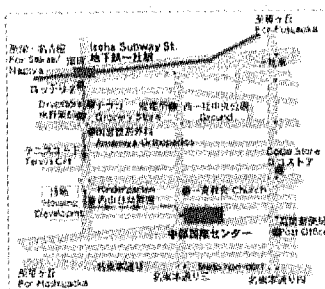
(財)三重県国際交流財団内 JICA 国際協力推進員 池田幸代(いけだ さちよ)
〒514-0009 津市羽所町 700 アスト津 3 階(津駅東口すぐ)
TEL: 059-223-5006 FAX: 059-223-5007
メール:jicadpd-desk-mieken@jica.go.jp

静岡県の方は・・・

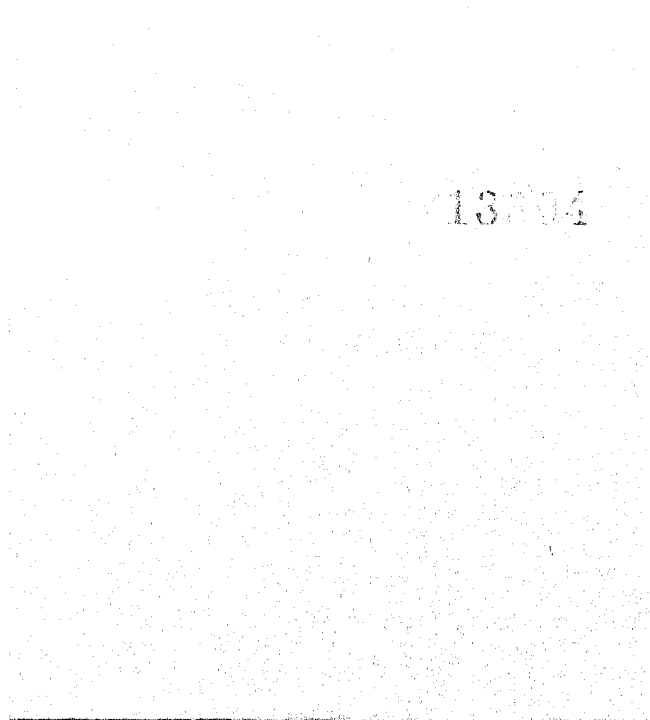


(財)静岡県国際交流協会内 JICA 国際協力推進員 大滝智子(おおたきさとこ)
〒420-8601 追手町 9-6 静岡県庁西館 4 階 (静岡駅より徒歩 10 分)
(7 月以降に移転予定)
〒422-8067 静岡市南町 14-1 水の森ビル 2 階 (静岡駅南口すぐ)
TEL: 054-221-3355 FAX: 054-251-8148
メール:jicadpd-desk-shizuokaken@jica.go.jp

♪ 東海 4 県の総合窓口 — JICA 中部 —



〒465-0095 愛知県名古屋市名東区亀の井 2-73 (地下鉄東山線 一社駅より徒歩 10 分)
独立行政法人国際協力機構 中部国際センター(JICA 中部) 連携促進チーム
TEL: 052-702-1391 FAX: 052-702-1390
メール:(開発教育・国際理解教育担当): cbictpp@jica.go.jp
ホームページアドレス: <http://www.jica.go.jp/worldmap/toukai.html>



平成 15 年度 開発教育指導者研修・実践講座 報告書

発 行 平成 1 6 (2 0 0 4) 年 3 月
発 行 者 独立行政法人国際協力機構 中部国際センター (J I C A 中部)
〒465-0094 名古屋市名東区亀の井 2 丁目 7 3 番地
Tel : 052-702-1391 Fax : 052-702-1390
<http://www.jica.go.jp/worldmap/toukai.html>
E-mail: jicacbic@jica.go.jp
編 集 協 力 特定非営利活動法人 N I E D ・ 国際理解教育センター
E-mail: nied@love-hug.net

